

製品名: ZP4 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab20309**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	65kDa

抗原情報

遺伝子名	ZP4
別名	ZP4; ZPB; Zona pellucida sperm-binding protein 4; Zona pellucida glycoprotein 4; Zp-4; Zona pellucida protein B
遺伝子 ID	57829.0
SwissProt ID	Q12836
免疫原	抗血清はヒト ZP4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 231-280

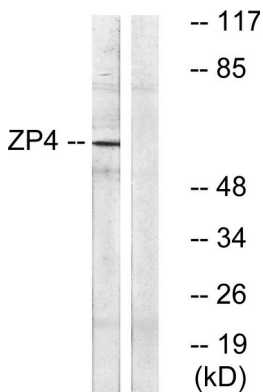
背景

透明帯は、卵母細胞と初期胚を取り囲む細胞外マトリックスです。主に 3 つまたは 4 つの糖タンパク質から構成され、受精および着

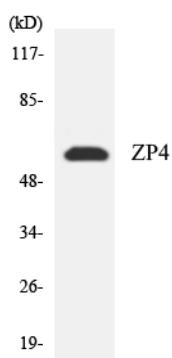
床前発生において様々な機能を有します。新生タンパク質は、N末端シグナルペプチド配列、保存された ZP ドメイン、コンセンサスなフューリン切断部位、および C 末端膜貫通ドメインを含みます。フューリン切断によって成熟タンパク質が細胞膜から遊離し、透明帯マトリックスに組み込まれると考えられています。しかし、マウスを用いた研究に基づくと、この過程におけるフューリン切断の必要性については依然として議論が続いています。以前、この遺伝子は ZP1 または ZPB と呼ばれ、マウスの Zp1 と同様の機能を持つと考えられていました。しかし、マウスの Zp1 と高い類似性と染色体シンテニーを持つヒト遺伝子には、シンボル ZP1 が割り当てられており、この遺伝子はドメイン:ZP ドメインは、ZP タンパク質の重合に関与し、透明帯を形成します。機能:哺乳類の透明帯は、種特異的な精子の結合、先体反応の誘導、受精後の多精子受精の防止を仲介し、3 つから 4 つの糖タンパク質 (ZP1、ZP2、ZP3、ZP4) で構成されています。ZP4 は精子受容体として機能する可能性があります。PTM:膜貫通セグメントの前でタンパク質分解的に切断され、透明帯に組み込まれた分泌型の細胞外ドメインを生成します。類似性:ZP ドメイン ファミリーに属します。ZPB サブファミリー。類似性:1 つの P 型 (三つ葉) ドメインを含む。類似性:1 つの ZP ドメインを含む。組織特異性:卵母細胞。

研究分野

画像データ



ZP4 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



ZP4 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。